



Title	懐徳 第52号 彙報 / 奥付
Author(s)	
Citation	懐徳. 1983, 52, p. 98-100
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/90620">https://hdl.handle.net/11094/90620</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 彙報

## (記念会)

### 事業報告

。「懐徳堂絵はがき」第一集 昭和五八年三月刊行。三宅石庵書「懐徳堂幅」、「中井竹山画像」、懐徳堂の紋（瓦拓本）、「懐徳堂旧址碑」の四枚一組である。

昭和五八年春季講座（第六六回）

大阪大学文学部並びに大阪府立文化情報センターとの共催で、同センターを会場に、五月二三日（日）より二八日（土）まで開催。月々金は午後六時半、土は午後二時より、各日二時間にわたって講演が行なわれ、連日一五〇名以上の聴講者が熱心に聞き入っていた。今回はテーマが美術史に関するものであったため、スライドが多く用いられ、好評を博した。

（近世画壇——人と作品）

狩野探幽 大阪大学教授 武田 恒夫  
尾形光琳 名古屋大学助教授 河野 元昭  
与謝蕪村 京都大学助教授 佐々木丞平  
円山応挙 同志社大学教授 橋本 綾子

司馬江漢 大和文華館次長 成瀬不二雄  
富岡鉄斎 京都国立博物館普及室長 金沢 弘  
昭和五八年秋季講座（第六七回）

大阪大学文学部・大阪府立文化情報センターと共催。一〇月二十四日（月）より二九日（土）まで同センターにて開かれた。上方ことばをめぐる講演であつただけに、関心も高く、連日一五〇名を超える聴講者があり、講演後の質問も活発に行なわれていた。

### （上方ことばの世界）

細雪の言語生活 鳴門教育大学教授 和田 實  
御所ことばについて 関西外国语大学教授 堀井令以知  
関西ことばの基層——ことばと文化——

### 『日本言語地図』からみた上方ことば

上方の地名 表現法の地域差  
大坂大学教授 德川 宗賢  
岡山大学教授 鏡味 明克  
国立国語研究所室長 佐藤 亮一

### 役員動静

。昭和五八年四月一日、加地伸行、森三樹三郎、若槻哲雄の三位氏、評議員に就任。

。昭和五八年七月二一日、畠中道雄大阪大学経済学部長、評議員に就任。

。藤塚誠二名誉書記、昭和五八年八月一七日逝去。

### 会務報告

。昭和五七年度懐徳堂記念会理事会・評議員会  
昭和五八年三月二五日、関電会館会議室にて開催。堀田庄三

理事長の司会のもと、次の案件について審議が行なわれ、いざれも原案通り承認された。

#### 昭和五七年度事業報告について

「懐徳堂・友の会」発足について

理事三名・評議員二名就任の報告と、評議員候補者三名について

理事三名・評議員二名就任の報告と、評議員候補者三名について

なお、出席は堀田庄三、片山良展、弘世現、松下幸之助（代理）、宮本又次、山村雄一、梅溪昇、岡田実、澤瀉久敬、斯波義信、信多純一、時野谷勝、日比野丈夫、宮地裕、脇田修、本間道雄、鳥野守の計一七名であった。  
岡山県総社市の生田雄吉氏より、三宅春樓の書軸をご寄贈いたしました（口絵参照）。

#### （友の会）

##### 事業報告

。「懐徳堂・友の会だより」

第一号は昭和五八年七月、第二号は同九月に発行。いずれも会員ならびに関係者に送付された。第三号は一二月に発行。  
○懐徳堂古典講座

第一回は「中国古典を読む」と題して、一〇月五日・同一七

日・一一月七日・同二一日・一二月五日・同一九日の全六日間（午後六時三〇分より八時）開催。会場は大阪梅田の第一生命ビル内好文クラブ会議室。講師は加地伸行・岸田知子両氏で、今回は『論語』をテキストとした。参加申込者数は六〇名。毎夜、五〇名前後の出席があった。

#### ・見学会

一〇月二二日（土）午前一〇時より一二時まで、大阪市文化財協会と難波宮遺跡を見学。大阪市教育委員会主任学芸員中尾芳治氏の解説を受ける。参加者三八名。

#### ○展示会

「懐徳堂—先賢とその遺風—」と題した展示会を一〇月二四日（月）より二七日（木）まで、大阪府立文化情報センターで開催。懐徳堂歴代学主・教授の遺品や墨跡を中心とした約四〇点を展示了。  
中井家資料（旧新田文庫）を入手。大阪大学蔵の懐徳堂文庫やすでに新田氏より寄贈いただいている新田文庫と合わせ、懐徳堂関係資料を一層充実したものとすることができた。

★懐徳堂記念会書記として永年尽瘁され、昭和五七年三月の御退職に際しては感謝状を贈り、名譽書記としてその功をお讚えした藤塚誠二氏は、五八年八月一七日永眠されました。懐徳堂と共に文字通り歩んでこられた同氏の御逝去を心より哀悼すると共に深い感謝の意を表します。  
★懐徳堂堂友会委員山口正男氏は、昭和五八年九月一七日御他界になりました。堂友会の發展に鋭意心を配られ、ことに友の会発足に当つて中島安之助氏と共に再三大阪大学に足を運ばれ、積極的に御尽力下さいました。ここに感謝と深い哀悼の意を表します。

## 役員動態

。昭和五八年三月二十五日、懷徳堂・友の会結成準備発起人会において、弘世現氏が会長に就任。

。弘世会長の推挙により副会長に山田総氏、同（運営委員長を兼ねる）に片山良展氏が就任。

。協議員には次の二五氏が就任。

池田一郎、上野淳一、上山善紀、宇野収、大西正文、熊谷典文、倉林育四郎、小林庄一郎、佐治敬三、鈴木敬、中山信正、南部知伸、能村龍太郎、原田敏丸、堀内宏昭、三川礼、三隅二不二、水村博昭、三野重和、宮本又次、山下俊彦、山中永之佑、山村雄一、湯浅徹子、若槻哲雄（五十音順、以下同じ）

。監事には磯田一郎、川勝堅二の両氏が就任。

。運営委員には次の九氏が就任。

鳥野守、加地伸行、川島巖、信多純一、斯波義信、武田恒夫、宮地裕、矢守一彦、吉田孝。

。七月二一日 原田敏丸協議員退任。畠中道雄大阪大学経済学部長 協議員に就任。

。一一月一日、磯田監事退任。小松康氏、監事に就任。

。一二月一日、川島運営委員退任。梅本哲氏、運営委員に就任。

## 会務報告

。昭和五八年六月一六日、運営委員会を日生本社にて開催。協議会・監事會に提出する議案を作成検討した。

。七月四日、協議会・監事會を、大阪大林ビルで開催。弘世会

長を議長として、次の事項について審議を行ない、いずれも原案通り承認された。

。昭和五八年度事業計画について

。昭和五八年度収支計画について

。出席は弘世、山田、片山の正副会長のほか、池田、上野、上山、大西（代理）、倉林（代理）、佐治（代理）、鈴木、南部、原田、堀内、三川、三隅、水村、山中、山村、湯浅、若槻の協議員一七名、川勝、磯田（代理）の監事三名、計二三名。なお運営委員六名が陪席した。

。会員募集のすすめ方について

## 懐徳 第五二号

昭和五八年一二月二十四日發行

560 豊中市待兼山町一一一 大阪大学文学部内  
発行編集 懐徳堂記念会

編集責任者・片山良展

600 京都市下京区中堂寺鍛田町二  
印刷 株式会社 図書 同朋舎